

介護福祉職のストレスの現状と解消法を探る

— 福祉学科卒業生へのアンケートから —

福 原 信 子

〈はじめに〉

本来、人間生活の営みのなかで、悩みや疲労の環境による身体的反応つまりストレスが全くない社会はありえない。また人間はストレスをバネに新しい段階へすすむ糧となることも多く経験しているところである。

しかし、現代社会においていかなる事業所、職場にあっても人は顕著なかたちで過大なストレスを背負っている。それは競争原理の追求のもとで必然的にもたらされた結果である。

この小論は、当校福祉学科卒業生がそれぞれの職場でどのような状況のなかで過ごしているのか、をアンケートという手法で調査、集約、区分するとともに、ストレスの有り様とその解決方法をさぐり一つの検討材料を提供するものである。それはストレス解消のための処方せんでは勿論ない。

I、アンケート調査、研究の概要

1、対象者と方法

対象者は福祉学科第1期生（平成12年3月卒業者）、及び第2期生（平成13年3月卒業者）の全員の内、4年生大学進学者や一般企業就職者などを除く99名（1期生50名、2期生49名）である。方法は、対象者全員に対するアンケート調査とし、各家庭への郵送とその返送により集約したものである。

2、何を求めているアンケートか（目的は何か）

もともと対人援助にたずさわる専門職は、他の職業に比較して毎日忙しくいろいろストレスを感じることが多い。高齢化社会の進展や介護保険制度の導入など介護をめぐる環境は大きく変化してきている。そこで、介護職のストレスの現状について調査し、その解消方法をさぐるための材料がえられればと考え、アンケートを実施することにした。

3、アンケート内容の概略

（1）内容の基本は

アンケートは矢富直美氏による「介護スタッフのストレス診断室」“あなたのストレスはどのくらい”を基本的参考とし、これに数項目を追加したものである。

（2）具体的には

①第1問、現在勤務している施設について

②第2問、職場でのストレスの元になるような出来事や状況について

これには6つの区分を設定し、各区分はさらに1～7項目の質問事項を配置する。

- ③第3問、仕事の満足度について
- ④第4問、ストレス解消の方法
- ⑤第5問、ストレスに関して（解消も含めて）意見を述べる

4、アンケートの実施

(1) 実施の期日

アンケートは平成14年7月1日付で、返信用封筒切手を同封して全員に送付し、7月15日を回答送付日に設定した。

(2) 回収への反省と教訓

- ①回答送付を7月15日に設定したものの返送はわずか42名（1期生25名、2期生17名）で率にして42%にすぎなかった。卒業生へのアンケートははじめてであるにしても、回収率が低い。しかし在校生でも100%には届かないことが多い。ここからどうするかがこのアンケート活動の一つの教訓である。まず未返送者へ電話。本人が電話口に出たときは、ハイと返事では応えてもらったが返送の数は多くない。携帯はすでに番号変更になってい人もいる。こうして7月末日までには若干返送されたが、率は不十分のまま。そこで在校中各グループであった1人に当てをつけ、他の人によびかけてもらうようにした。こうして8月に入りすこしずつ届き月末には1期生34名（68%）、2期生27名（55%）に落ち着いた。
- ②卒業生にはストレスのかかえる職場があり（なかには退職している場合も）、素直に返答しにくい場合があるかもしれない。送付する前に一定の準備が必要である。卒業生が自らの問題であるという認識をもって頂くよう働きかけること、などである。

(3) 卒業生のこころがつかめたか

回収は全体で約62%であるが、アンケートにこめられた意図が伝えられたかどうか。アンケートの項目のみに記入した人、アンケート中の意見欄に現状、悩みを素直に表した人。また別紙手紙も同封し近況と学校への思いを記した者もかなりの数にのぼったことはうれしい限りであった。後日何らかのかたちで卒業生と学校、教員のつながりを意識されるであろうと思う。

(4) 未提出者と内容の確率の問題

電話で対応しながら結局未提出の人もあったがさまざまな理由があると思われた。アンケートに書きづらいこと、一たん就職したものの職場の状況に合わず退職している場合、福祉職場以外に転職していること、などである。

未提出者数によりアンケート内容が提出者のみの集計となり、全員からの確率でないことをあらかじめ注意しておくべきことである。

Ⅱ、どんなところへ就職しているか

1、多い特別養護老人ホーム

アンケート項目は次のページのとおり設定し集約した。

2、卒業年度による比較

介護福祉士養成機関である福祉学科として、特別養護老人ホーム（以下「特養」という）勤

務が多いこと、また卒業年度によって差があること、地理的条件でデイサービス施設や福祉事業関連にも就職していることが分かる。

ただこの数値は回収率62%であり全卒業生からみれば、その割合に変化が出ることが予想される。なお、便宜的に集約の途中の段階で、第1グループ(①特養)、第2グループ(②老健施設)、第3グループ(③～⑧)、第4グループ(⑨そ

項 目	1 期 生		2 期 生		計	
① 特別養護老人ホーム	11	32.3	18	66.7	29	47.5
② 老 健 保 険 施 設	10	29.4	3	11.1	13	21.3
③ 経費老人ホーム	1	2.9			1	2.9
④ 病 院	1	2.9			1	2.9
⑤ 身体障害者施設						
⑥ 救 護 施 設						
⑦ 社会福祉協議会	1	2.9	1	3.7	2	3.3
⑧ 福 祉 関 連 施 設	7	20.6	1	3.7	8	13.1
⑨ デイサービス等	3	8.8	4	14.8	7	11.5
⑩ 家 事 手 伝 い						
計	34 人	100 %	27 人	100 %	61 人	100 %

の他デイサービス等)として集計した。しかし「V、職場の満足度」の欄以外は記されていない。

Ⅲ、31項目を設定し検証する

〈4つの基準で数値化〉





このアンケートの中心問題として、ストレスの元になるような出来事や状況がどの程度進行しているかを、ここでは31項目を設定しそれぞれについて、なかった(0点)、たまにあった(1点)、ときどきあった(2点)、よくあった(3点)、の判断基準にもとづき数値化した。つまり各項目の点数の高い回答ほどストレスが高まっていることになる。そして、この31項目は、職場、仕事、利用者、事務的工作、家族、同僚の6つに区分している。なお、各項目の点数を区分ごとに合計し、これについて別途基準による評価を行うことにする。(Ⅳ参照)。

1、職場の上司に関すること(第1区分)

(1) 直接の指示関係のある7項目の設定とその集計

- ①仕事上のさ細なことや仕事以外のことで、上司(施設長、主任、相談員など)から注意を受けたり注文をつけられる。
- ②処遇の考え方や方法について、上司(施設長、主任、相談員など)と意見が食い違う。
- ③施設側(管理・経営)が、現場の声を無視した要求をする。
- ④上司(施設長、主任、相談員など)が感情的な言動をとる。
- ⑤上司(施設長、主任、相談員など)が、自分の仕事の内容を理解してくれない。
- ⑥上司(施設長、主任、相談員など)から、同僚と比べられたり、差別されたりする。
- ⑦上司(施設長、主任、相談員など)から、処遇の考え方や方法を無理におしつけられる。

各項目ごとに、0点、1点、2点、3点に該当する人数を集計し、%にして示したのが以下の図

である。 0点…、1点…、2点…、3点…。(以下同じ)

〈職場の上司に関すること7項目〉

(指数は%)

1	1 期生	38.2	23.5	26.5	11.8
	2 期生	33.3	22.2	29.6	14.8
	計	36.1	23.5	27.9	13.1
2	1 期生	47.1	26.5	14.7	11.8
	2 期生	33.3	25.9	18.5	22.2
	計	41.0	26.2	16.4	16.4
3	1 期生	38.2	14.7	20.6	26.5
	2 期生	37.0	25.9	14.8	22.2
	計	37.7	19.7	18.0	24.6
4	1 期生	38.2	23.5	14.7	23.5
	2 期生	44.4	37.0	11.1	7.4
	計	41.0	29.5	13.1	16.4
5	1 期生	55.9	23.5	14.7	5.9
	2 期生	59.3	14.8	18.5	7.4
	計	57.4	19.7	16.4	6.6
6	1 期生	73.5	8.8	11.8	5.9
	2 期生	63.0	18.5	14.8	3.7
	計	68.9	13.1	13.1	4.9
7	1 期生	67.6	11.8	11.8	8.8
	2 期生	48.1	40.7	7.4	3.7
	計	57.0	24.6	9.8	6.6

(2) 比較的良好な状況だが、上司はもっと仕事を理解してほしい

上記図(グラフ)から分かるように、職場の上司に関しては約33%から項目によっては約70%の人がストレスにかかる状況が少ないことが分かる。しかし、現場の声を無視したり、上司が自分の仕事を理解してくれない状況もある。1期生と2期生の間の差は大きくなかった。

《卒業生の声》

「直接の上司が対応してくれなくて、上のケアマネと登録ヘルパーの間にはさまれストレスになり、脱毛症になったこともある。有休をとって遊んだ。」「職員が7人で仕事に関して密に話せるの

でストレスの感じる事少ないと思う。」(以上1期生)「上司が実際の現場の状況をよく知らずどんどん注文をつけてくる。職員同士がグチを言い合っている。」「反論する人にはやさしく、逆の人にはきびしい上司が。」(以上2期生)

2、介護の仕事に関する事(第2区分)

(1) 仕事の内容にかかわる7項目とその集計

- ①仕事が多くて時間に追われる。
- ②夜勤時に何か起こるのではないかと緊張している。
- ③夜勤時に仕事が多くて忙しい。
- ④移送・移動時に、肉体的に厳しい作業をする。
- ⑤自分の希望する日に休みがとれない。
- ⑥忙しくて、利用者の訴えに十分に対応できない。
- ⑦利用者の問題行動(暴力、奇声、拒否、徘徊など)があり、特に手がかかる。

〈介護の仕事に関する事7項目〉

(指数は%)

1	1期生	8.8	17.6	20.6	52.9
	2期生	11.1	33.3	55.6	
	計	4.9	14.8	26.2	54.1
2	1期生	32.4	14.7	11.8	41.2
	2期生	22.2	37.0	11.1	29.6
	計	27.9	24.6	11.5	36.1
3	1期生	35.3	11.8	26.5	26.5
	2期生	25.9	37.0	14.8	22.2
	計	31.1	23.0	21.3	24.6
4	1期生	32.4	29.4	11.8	26.5
	2期生	37.0	37.0	11.1	14.8
	計	34.4	32.8	11.5	21.3
5	1期生	38.2	26.5	14.7	20.6
	2期生	59.3	11.1	11.1	18.5
	計	47.5	19.7	13.1	19.7
6	1期生	23.5	29.4	23.5	23.5
	2期生	18.5	37.0	7.4	37.0
	計	21.3	32.8	16.4	29.5
7	1期生	32.4	11.8	17.6	38.2
	2期生	18.5	37.0	18.5	25.9
	計	26.2	23.0	16.4	32.8

(2) 時間に追われる

- ①②項目にみられるように、時間的に追われ、夜勤時は緊張する状況が続いていることが分かる。
希望する日に休みがとれない状況もある。これらは若い年齢層には負担と感ずることである。ただ、他の項目については比較的平均化していることも示されている。

《卒業生の声》

「色々くやしかったり、ムカついたりしたが、続けているのはアドバイスしてくれる信頼できる先輩のおかげ。」「週1回のカンファレンスで施設長も含め話し合っ解決している。」(以上1期生)
「この仕事をつづける限りストレスは解消されないだろう。一時的に軽減しているがまたたまる。」
「ストレスがたまっても仕事が終わって飲みに行き、言いたいこと言い合っ解消している。」(以上2期生)

3、利用者に関すること(第3区分)

(1) 利用者とはどんな関係か、を5項目で集計

- ①利用者が、あなたに対して高圧的な態度をとる。
②良いと思ってすることが利用者に理解されない。
③一生懸命取り組んだことの効果が表れない。
④こちらの言っていることが、利用者に伝わらない。
⑤利用者がわがままあるいは非協力的な態度・言動をとる。

〈利用者に関すること5項目〉

(指数は%)

1	1期生	41.2	38.2	14.7	5.9
	2期生	51.9	33.3	14.8	
	計	45.9	36.1	14.8	3.3
2	1期生	26.5	52.9	11.8	8.8
	2期生	22.2	66.7	7.4	3.7
	計	24.6	59.0	9.8	6.6
3	1期生	35.3	32.4	26.5	5.9
	2期生	22.2	59.3	11.1	7.4
	計	29.5	44.3	19.7	6.6
4	1期生	23.5	14.7	35.3	26.5
	2期生	25.9	37.0	22.2	14.8
	計	24.6	24.6	29.5	21.3
5	1期生	20.6	29.4	23.5	26.5
	2期生	14.8	51.9	14.8	18.5
	計	18.0	39.3	19.7	23.0

(2) 理解されたときは

利用者の高圧的な態度は少ない方だが、非協力的な態度はままある。こちらからの思いが利用者に伝わらない時にいらだちを感じながらも、理解されたときはこの仕事にやりがいを感じている。

《卒業生の声》

「敵意を持たれることもあるが、一瞬楽しそうに笑ってくれたり、“ありがとう”の言葉でストレス解消。」「利用者人間と思わない人達がいるのは耐えられない。」(以上1期生)「何を目的に介護をしたらよいのか。自立支援か、現状維持で事故なく・・・でよいのか。」「人に辛く言う人(利用者)は辛い思いをしているのだなあ、と思います。」(以上2期生)

4、事務の仕事については(第4区分)

(1) 必要な記述を求められる、についての3項目と集計

- ①時間内に仕事が終わらず、仕事を家に持ち帰らなければならない。
- ②時間内に仕事が終わらず、残業をしなければならない。
- ③記録を書くのに追われる。

〈事務の仕事について〉

(指数は%)

1	1期生	52.4	23.5	11.8	11.8
	2期生	37.0	33.3	18.5	11.1
	計	45.9	27.9	14.8	11.5
2	1期生	20.6	23.5	17.6	38.2
	2期生	22.2	33.3	11.1	33.3
	計	21.3	27.9	14.8	36.1
3	1期生	26.5	20.6	14.7	38.2
	2期生	25.9	33.3	18.5	22.2
	計	26.2	26.2	16.4	31.1

(2) 苦手なこともある

結果をみれば、やはり記録を書くのに追われ残業することもあるが、家に持ち帰ることは少ない方である。

《卒業生の声》

「ケアマネージャーが小じゅうとのように細かいことを言うてくる。色んな意見を聞き過ぎて決断できない。」(1期生)「いくら仕事を頑張っても事務所側が分かってくれずストレスを感じる。気にしないように仕事にのめり込み解消に努める。」(2期生)

5、家族に関しては(第5区分)

(1) 働きつづけられる条件でもある家族に関し、4項目と集計

- ①家庭の用事のために仕事を休まなければならない。

- ②家族が自分が働くことに対して不平や不満を言う。
 ③家庭での役割と仕事との間で板ばさみになる。
 ④上司や同僚が自分の家庭での立場を理解してくれない。

〈家族に関しては4項目〉

(指数は%)

1	1期生	73.5	26.5(1点)	7.4(1点)	2.9	5.9
	2期生	92.6				
	計	82.0	18.0(1点)			
2	1期生	82.4	8.8	3.7(3点)	1.6	4.9
	2期生	96.3				
	計	88.5	4.9			
3	1期生	73.5	5.9 8.8 11.8	3.7(1点)		
	2期生	96.3				
	計	83.6	4.9 4.9 6.6			
4	1期生	82.4	8.8 8.8			
	2期生	100.0				
	計	90.1	4.9 4.9			

(2) 家族の支えで乗り切れる

職場に対する家庭と自分の問題であるが、よく配慮されていることが示されている。働きつづけられるのは職場と家庭の理解があつてのことである。

《卒業生の声》

「家にいると自分を忘れてしまう。いま福祉をやめて転職しようと思っている。でも未来では多分福祉の仕事をしていると思うが。」(1期生)

6、職場の同僚に関すること(第6区分)

(1) 意思疎通がうまくいくこと、など5項目とその集計

- ①職員間での意思疎通がうまくいかない。
 ②他の職員が、能率的に仕事をしない。
 ③同僚(職種を問わず)が、感情的な言動をとる。
 ④処遇の考え方や方法について、他職種と意見が食い違う。
 ⑤処遇の考え方や方法について、同僚(同じ職種)と意見が食い違う。

〈職場の同僚に関すること 5 項目〉

(指数は%)

1	1 期生	32.4	23.5	32.4	11.8
	2 期生	44.4	48.1	7.4	
	計	37.7	34.4	21.3	6.6
2	1 期生	29.4	20.6	32.4	17.6
	2 期生	48.1	37.0	7.4	7.4
	計	37.7	27.7	21.3	13.1
3	1 期生	44.1	17.1	20.6	17.6
	2 期生	55.6	29.6	14.8	
	計	49.2	23.0	18.0	9.8
4	1 期生	44.1	23.5	20.6	11.8
	2 期生	55.6	33.3	11.8	
	計	49.2	27.9	16.4	6.6
5	1 期生	58.8	20.6	11.8	8.8
	2 期生	59.3	40.7 (1 点)		
	計	59.0	29.5	6.6	4.9

(2) 同僚との中は施設全体の問題

卒業生の実態からは、処遇の考え方や方法について意見が食い違うことはそれほど多くはない。しかし他の職員との意思疎通や感情的な言動、能率的仕事については、問題が残されていることも明かである。これらは個人の問題でもあるが、施設全体の問題でもある。

《卒業生の声》

「いま自分が一番したいことをして過ごすのが一番。同じ仕事をしている人にしか分からないことがあるので話を聞いてもらえるのもいい。」「年の近い同じワーカー同士話し合いグチを言っている内に解消へ。」(以上 1 期生)「職員がストレスになったらお年よりもよくない空気を感じさせる。相手(利用者)を理解し、受けとめる大きい心が必要。」(2 期生)

IV、6 つの区分ごとの評価

〈“あなた”に係わる 6 つ場面〉

これは前記各項目につて出された 0 点～3 点までの点数を、各区分ごとに合計した点数(数値)をもとに、ストレスの状況を判断するものである。これをあなたの上司、仕事、利用者、事務的仕事、家族、同僚の 6 つの区分ごとに観察する。

1、職場の上司に関すること

(1) 判断基準

- 0点 …………… 最良 上司に対するストレスはまったくない
 ○1～3点 …………… 良 上司に対するストレスは少ない方
 ○4～9点 …………… 普通 上司に対するストレスは普通
 ○10～17点 …………… 悪い 上司に対するストレスがたまっている
 ○18点以上 …………… 最悪 上司に対するストレスが非常にたまっている

	0点		1～3点		4～9点		10～17点		18点以上	
1期生	5	14.7	4	11.8	17	50.0	6	17.6	2	5.9
2期生	2	7.4	1	3.7	17	63.0	6	22.2	1	3.7
計	7人	11.5%	5人	8.2%	34人	55.7%	12人	19.7%	3人	4.9%

(2) 半数の人が普通程度

半数の人が上司に対するストレスは普通であるが、残り半数が前後にふり分けられている事が分る。

2、介護的仕事に関して

(1) 5つの段階で考える

- 0～4点 …………… 最良 介護的仕事に対するストレスは全くない
 ○5～9点 …………… 良 介護的仕事に対するストレスは少ない
 ○10～14点 …………… 普通 介護的仕事に対するストレスは普通
 ○15～18点 …………… 悪い 介護的仕事に対するストレスがたまっている
 ○19点以上 …………… 最悪 介護的仕事に対するストレスが非常にたまっている

	0～4点		5～9点		10～14点		15～18点		19点以上	
1期生	5	14.7	8	23.5	10	29.4	8	23.5	3	8.8
2期生	2	7.4	11	40.7	7	25.9	6	22.2	1	3.7
計	7人	11.5%	19人	31.1%	17人	27.9%	14人	23.0%	4人	6.6%

(2) 3割の人が普通で残りを前後に

約3割の人が普通の状況で、ここでも残りを前後にふり分けた状況である。

3、利用者に関すること

(1) 避けられないストレスも

- 0点 …………… 最良 利用者に対するストレスが全くない
 ○1～3点 …………… 良 利用者に対するストレスが少ない
 ○4～6点 …………… 普通 利用者に対するストレスは普通
 ○7～10点 …………… 悪い 利用者に対するストレスがたまっている
 ○11点以上 …………… 最悪 利用者に対するストレスが非常にたまっている

	0 点		1 ～ 3 点		4 ～ 6 点		7 ～10点		11点以上	
1 期生	4	11.8	3	8.8	9	26.5	15	44.1	3	8.8
2 期生	1	3.7	6	22.2	9	33.3	10	37.0	1	3.7
計	5 人	8.2%	9 人	14.8%	18人	29.5%	25人	41.0%	4 人	6.6%

(2) 利用者も人間

普通とストレスがたまっている、を合わせると約70%に達する。利用者の攻撃的な言動や無理解などに起因すること多いと思われるが、若い卒業生にとっては試練の時間でもある。

4、事務の仕事について

(1) 必要な業務として

- 0 点 …………… 最良 事務の仕事に対するストレスは全くない
- 1 点 …………… 良 事務の仕事に対するストレスは少ない方
- 2 ～ 4 点 …………… 普通 事務の仕事に対するストレスは普通
- 5 ～ 7 点 …………… 悪い 事務の仕事に対するストレスがたまっている
- 8 点以上 …………… 最悪 事務の仕事に対するストレスが非常にたまっている

	0 点		1 点		2 ～ 4 点		5 ～ 7 点		8 点以上	
1 期生	7	20.6	1	2.9	9	26.5	11	32.4	6	17.6
2 期生	2	7.4	3	11.1	9	33.3	9	33.3	4	14.8
計	9 人	14.8%	4 人	6.6%	18人	29.5%	20人	32.8%	10人	16.4%

(2) 管理職以外も事務の仕事が

最良と普通、ストレスがたまっている層に分布しているが、これは事務の仕事が管理職だけでなく一般職でも記録や評価をする業務がふえていることの表れであると思われる。

5、家族に関すること

(1) 家庭のぬくもりで

- 0 点 …………… 良 家庭に対するストレスはない
- 1 ～ 2 点 …………… 普通 家庭に対するストレスは普通
- 3 ～ 5 点 …………… 悪い 家庭に対するストレスがたまっている
- 6 点以上 …………… 最悪 家庭に対するストレスが非常にたまっている

	0 点		1 ～ 2 点		3 ～ 5 点		6 点以上	
1 期生	19	55.9	6	17.6	7	20.6	2	5.9
2 期生	22	81.5	4	14.8	1	3.7	0	0
計	41人	67.2%	10人	16.4%	8 人	13.1%	2 人	3.3%

(2) 若い卒業生であるが

夜勤もある不規則勤務があるなかで、家庭の役割と仕事の役割に相反する場面もあるが、家族で家事負担を分担するなどが求められている。若い卒業生の場合父母の助けのなかにあることが、0点（良）の多いことに示されている。

6、職場の同僚に関すること

(1) 意外に多いストレス

- 0～1点 …… 最良 同僚に対するストレスは全くない
○2～4点 …… 良 同僚に対するストレスは少ない
○5～7点 …… 普通 同僚に対するストレスは普通
○8～12点 …… 悪い 同僚に対するストレスがたまっている
○13点以上 …… 最悪 同僚に対するストレスが非常にたまっている

	0～1点		2～4点		5～7点		8～12点		13点以上	
1期生	8	23.5	4	11.8	12	35.3	7	20.6	3	8.8
2期生	9	33.3	7	25.9	9	33.3	2	7.4	0	0
計	17人	27.9%	11人	18.0%	21人	34.4%	9人	14.8%	3人	4.9%

(2) 不協和音を小さいうちに

同僚に対するストレスは、ほぼ分布している。とくに女性の多い職場では人間関係が大切である。不協和音をできるだけ小さくする管理職の役割も重要である。

V、職場の満足度は

1、4つの設定項目と職種別分類

(1) 設定項目は

①満足している、②やや満足している、③あまり満足していない、④満足していない、である。

(2) 4つの職場グループに分けて

Ⅱの項で求めた勤務施設を便宜的に、①特養 ②老健施設 ③福祉関連的職場 ④デイサービスに分けて以下のとおり集計した。

		特 養		老 健 施 設		福祉関連の施設		デイサービス等		計	
満足している	1期生	1	2.9	0	0	1	2.9	0	0	2	5.9
	2期生	3	11.1	1	3.7	0	0	1	3.7	5	18.5
	計	4人	6.6%	1人	1.6%	1人	1.6%	1人	1.6%	7人	11.1%
やや満足	1期生	6	17.6	5	14.7	7	20.6	1	2.9	19	55.5
	2期生	9	33.3	0	0	2	7.4	3	11.1	14	51.9
	計	15人	24.6%	5人	8.2%	9人	14.8%	4人	6.6%	33人	54.1%
あまり満足していない	1期生	3	8.8	4	11.8	2	5.9	1	2.9	10	29.4
	2期生	5	18.5	1	3.7	0	0	0	0	6	22.2
	計	8人	13.1%	5人	8.2%	2人	3.3%	1人	1.6%	16人	26.2%
満足していない	1期生	1	2.9	1	2.9	0	0	1	2.9	3	8.8
	2期生	1	3.7	1	3.7	0	0	0	0	2	7.4
	計	2人	3.3%	2人	3.3%	0人	0%	1人	1.6%	5人	8.2%
合計	1期生	11	32.4	10	29.4	10	29.4	3	8.8	34	100.0
	2期生	18	66.7	3	11.1	2	7.4	4	14.8	27	100.0
	計	29人	47.5%	13人	21.3%	12人	19.7%	7人	11.5%	61人	100.0%

2、きびしく感じている

(1) 一つの条件のもとで

満足度をみる場合一つの条件があると思う。就職して1期生は2年あまり、2期生が1年余でまだ経験が不足していること。また年齢も21～22才で社会人生活が短いこと、など。職場での位置と役割も充分体得していない。こうしたもつで4つの設定項目の中間部分を選択したのであろうか。こうした前提で集計をみる必要があると思われる。

(2) 具体的にみる

- ①「満足している」が低いこと。特養ではわずか1名、2期生もいれて4人。全体で7人11.5%となり、きびしく感じているのである。
- ②「やや満足している」に集中していること。1、2期生とも半数をこえる層がここにある。
- ③「あまり満足していない」は4分の1になる。1、2期生を通じての特徴となっている。
- ④「満足していない」も少数だが、4つの職場にほぼ1人ずつになっているのはなぜだろうか。

以上、総じて決して満足しているとは言えないが、今後経験を経ることで活路を見いだしてくれることを期待したい。

Ⅵ、どこに求めるストレスの解消力？

1、20項目を設定し複数回答を求める

①寝る ②友達とおしゃべり ③買い物をする ④旅行をする ⑤会食をする ⑥デートに行く ⑦コンサートや映画に行く ⑧カラオケに行く ⑨本を読む ⑩料理を作る ⑪家族で 団らんをする ⑫テレビを見る ⑬スポーツをする ⑭FM放送 を聞く ⑮山や海へ出かける ⑯散歩する ⑰寝そべって何 も考えない ⑱部屋などを掃 除する ⑲草花 などの手入 れをする ⑳その他							
項 目	1 期 生		2 期 生		計		
	人数	%	人数	%	人数	%	
友達とおしゃべり	24	70.1	20	74.1	44	72.1	
買い物をする	23	67.6	19	70.4	42	68.9	
寝る	25	73.5	15	55.6	40	65.6	
カラオケに行く	16	47.0	9	33.3	25	41.0	
テレビを見る	13	38.2	11	40.7	24	39.3	
デートに行く	17	50.0	5	18.5	22	36.1	
寝そべって何も考えない	10	29.4	10	37.0	20	32.8	
会食をする	12	35.2	8	29.6	20	32.8	
コンサートや映画に行く	12	35.3	6	22.2	18	29.5	
旅行をする	9	26.5	7	25.9	16	26.2	
家族でだんらん	5	14.7	8	29.6	13	21.3	
散歩する	6	17.6	4	14.8	10	16.4	
部屋掃除する	8	23.5	2	7.4	10	16.4	
スポーツする	6	17.6	3	11.1	9	14.8	
山や海へ	4	11.8	4	14.8	8	13.1	
本を読む	3	8.8	4	14.8	7	11.5	
料理をつくる	4	11.8	0	0	4	6.6	
草花の手入れ	2	5.9	0	0	2	3.3	
FM放送を聞く	1	2.9	0	0	1	1.6	
その他	3	8.8	8	29.6	11	18.0	

2、「おしゃべり」がトップ で考えさせられる

1 期生、2 期生の合計で高い順にみると、右表のとおり。「友達とおしゃべり」「買い物をする」「寝る」ことに各々 61人中40人の卒業生がストレス解消力を見いだしている。職場を離れたリラクセスする場で癒している事が分かる。現代社会のストレスがそれだけきびしい環境にあると言えるだろう。

〈おわりに〉

胸ふくらませ就職した学生が福祉職になってよかったと思える環境、それは仕事の継続性と自らの資質向上に役立つ働きがいある職場ではないだろうか。しかし実際の状況は、このアンケートから卒業生たちが職場や環境のなかのもろもろのストレスを感じながら仕事をしていることを示している。ストレスを解消するための特効薬的な施策はない。それぞれの職場におけるいろいろな条件と局面において、前向きに努力する卒業生たちをサポートする体制の必要性を痛感するものである。福祉職員を養成する私たち教員も技術面だけでなく人間性豊かな教育を実践することが求められていると思う。

引用、参考文献

- 1) 矢富 直美 「介護スタッフのストレス診断室」(ふれあいケア、4-19、7、2000)
- 2) 笠原 幸子 「介護福祉職の仕事の満足度」に関する考察(介護福祉学 8、2001)
- 3) 「特別養護老人ホーム職員のストレスの現状 その1」(第9回日本介護福祉学会大会 9、2001)
- 4) 日野原 重明著 「新老人を生きる」 光文社 2001年5月